

報 告 書

開催日時	平成26年11月5日（水）午後7時～8時30分	
開催場所	陸前高田市役所（4号棟第5会議室）	
出席議員	挨拶	佐藤信一班長（産業建設常任委員会委員長）
	司会進行	佐々木一義
	報告者	菅野定
	記録者	伊勢純、菅野広紀
	議員	伊藤明彦
参加人数	4人	
主な要望・提言等	<p>○生出地区林業研究会から</p> <p>四国高知県で中嶋健造（NPO）土佐の森・救援隊事務局長から近年新しい形の林業として注目を浴びている「自伐林業」について話を聞く、木質バイオマス（林地残材）の利用、中でも木質バイオマスの収集運搬システムの全国初の成功事例、仁淀川町では林地残材を収集運搬してエネルギー転換して最終利用する「高知県仁淀川流域エネルギー自給システム」の構築を手掛けており、林地残材の収集運搬システムの運用が、非常に上手くいきはじめています。</p> <p>現地を視察した際、林道幅は2m程度、1週間前に1100mmの降雨でも林道は壊れない…山の保全を考えている（自然と調和のとれた林業）</p> <p>自伐林業も100haの所有であれば可能と思われるが、陸前高田市ではムリ、しかし、地域共同では可能ではないか、その為に、大型の炭釜を計画している。</p> <p>○奈良県の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業研修生の受入を補助金（18万円）を投入にて、若手林業者を都会から受け入れ。3年間、2人を雇用し、後継者育成を図っている。 ・宿泊所を運営してボイラーの木質化を図る ・両角先生との交流から木質エネルギーの利用促進を、生出地区の資源である木材（間伐材）の利用 <p>○岐阜県恵那市の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炭釜作成。間伐材の高度利用目的に大型の炭釜を作成したい、その 	

後押し（補助金等）をお願いしたい。鉄板を使って発電も視野に入れているが、木炭車の実績も有り蓄電から発電までを考えている。但し、高価な炭を使うのではなく、間伐材利用の炭を使って！
生出地区では 1kg 150 円、100g150 円の炭大型炭釜は、20 m³の間伐材から約 2t の炭が出来る。ダムに溜まった木材から大雨での流木まで可能。

○エネシフ気仙

エネルギーシフトを目的に結成。林業を通して循環型エネルギーを考える事を目指す。植林してない、再造林率 30%、主伐は 64ha のうち再造林されていない面積は約 40ha。この 40ha をどうするか？化石燃料から木質バイオを！

県内各地に大型のバイオマス発電や代替エネルギー施設が開設予定、なので陸前高田市では今着手するのではなく、各地の動向を見るのも一考に価する。エネルギーの多目的利用、熱利用等も考える。

自伐林業も林業の一つの形態と認識し否定はしない。高価な大型機械を導入しても利用頻度が少なければ経営に負担がかかる。

- ・間伐材利用は林業のサイクルでは重要、間伐材を引き取ってくれる仕組みがあれば放置間伐材は減少し山の環境も良好に保たれると思われる。
- ・行政との連携は重要！林業だけの問題ではなく地域全体のエネルギー問題と山の環境保全という視野に立って施策を考えて欲しい。
- ・ノーマライゼーション、林業の視点で何か無いかと聞かれた時、木材を加工する工場であれば、例えば名刺等を加工するのであれば障がい者の雇用ということも考えられる。

Q：森づくり県民税について、利用状況と感想は？（ハード・ソフト事業がある中で、森林組合からはハード事業は使い勝手が悪い、との意見があったが）

A：（ソフト事業は）生出地区では立教大学との交流で利用している。ハード事業については、行政と森林組合で施策等で方向性を示して欲しい。

Q：気仙沼商会の発電事業の概要はどんなものか。ヒシ油・・・7,000 m³（畠山林業での年間主伐に匹敵する量）の木（間伐材）を出して、加工して 10 億円売上げ、その際、製材所との連携も必要。

- ・住田の事例、（モアツリーズとの連携で）間伐体験を行ない林業従事者とも交流が生まれる、交流人口拡大には一つのヒントになるのではないか、その場合、林業担当行政だけでなく商工観光との行政内連携も必要。

	<ul style="list-style-type: none"> ・水車を活用して、ハウス園芸等にチャレンジしている、今後、電気自動車の充電スタンドを生出に作ろう！という取組みを…夢のような話だが、可能性に取り組んでいる。 ・生出木炭祭りも 28 回を開催、地元の高齢化もあり継続も困難もあり、30 回を機に止めよう、と思っている。 <p>Q：ペレットの値段の高さもあるが、販売先もわからない（コストと入手のしやすさをどう考えるのか。）</p> <p>A：エネシフはあくまで木質エネルギーを考え、長谷川建設さんのネットワークで一部活動しているが、この地域で何が一番需要が有るのか等を研究中、ペレットは今の灯油の相場であればペレットの方が安価。PR 不足も認識してる今後研究調査を重ね、需要と供給のバランスを見ながら相対的に利用度を上げて行きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホダ木不足について、木炭の原料となるホダ木が不足している、放射の汚染も原因しており、困った事にホダ木は名目は椎茸原木として購入しているので、この辺の緩和策を木炭の里生地区としては、産業としても重要なので要望する。
<p>所 感</p>	<p>【伊勢純】</p> <p>参加者からの「林業振興のための人材はボランティアではなく、人件費をつけてほしい」という切実な声を受け止めたいと思った。</p> <p>やる気をもって取り組む若者が様々な取組みを通じてがんばり、その中で事務局の役割の方々をどのように支えるかが課題として浮かび上がった。</p> <p>また、ペレットストーブなどの導入では、初期投資の負担の重さが指摘され、そこを乗り越えさえすれば、地元での木質エネルギーの循環が始まる可能性が高いことが指摘された。</p> <p>市民の間では、入手先の困難をあげる人もあるが、どこかが最初に一步を踏み出すことの大切さを理解することができた。</p> <p>木材の払い下げについての要望も出され、現状の確認と改善を進めたいと思った。</p> <p>【菅野定】</p> <p>森林林業の生産性を上げるためには作業の高度化は必要であります。一方で、その作業の過程の発生する端材の処理、C 級木材の処理について、木材のチップ化やペレット化による消費の対応が必要であります。そのような中で、発電施設とかの大きな処理施設を要求するのではなく、木材のチップやペレットを使つての消費する施設の建設を希望するものであります。</p> <p>全国木のまちサミットにおいても、自分の所で発生したものは自分</p>

たちで消費し、森林を綺麗にして、地産地消のサイクルの考えのもと、携わる方々を育てながら、長期的に林業を維持していくとしています。

当市に温水プールなどの公共施設の建設計画があるとするれば、木材チップ、ペレットなどを燃料とした熱エネルギー取得の考えを取り入れ、地域の林業を育てて欲しいものであります。

また、生出地区の木炭を活用した発電による再生可能エネルギーの研究に対しては、地元で協力するメンバーが高齢化していることから、これから先、再生可能エネルギーの研究をしていただくために、大学教授の方々との交流を絶やさないように、市からのスタッフの協力を得たいと述べていました。私もそのような研究が大切と考えることから、当局にスタッフの協力を要請したいと思います。

【菅野広紀】

森づくり県民税の実態を議会で調査が必要ではないかと感じた。

少人数での意見交換でしたが、普段の会議では出ない話と苦労の本音の話が出て、意見交換が出来たと感じる。

【伊藤明彦】

生出地区では林業研究会が中心となり、先進地視察をしながら地域エネルギー自給システム構築事業などに積極的に取り組んでいる。

【佐々木一義】

生出地区は、木質バイオマスの取り組みを大学を始め多くの関係者と、長年研究、実証実験を繰り返し取り組んできたが、今後の取り組みについては、生出コミセンだけでは限界がきている。

【佐藤信一】

エネシフ気仙と生出コミセンの役員からの出席で、少人数ではあったが、森林資源の新たな活用としての木質バイオマスエネルギーについて、それぞれの立場から提言がなされ、地域循環システムの構築や、ペレット、チップ燃料の公共施設等への利用についても話があり、今後に向けて大変有意義なものであったと感じた。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員長 松田信之様

平成26年12月9日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成26年度議会報告会 3班

班長 佐藤信一 ㊟